

第16期

中期経営計画

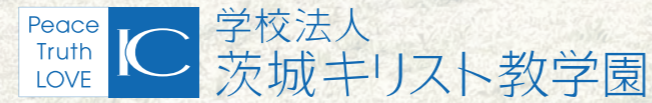
2026年度-2030年度

学校法人
茨城キリスト教学園



茨城キリスト教学園第16期中期経営計画

発行日: 2026年4月1日
発行者: 学校法人 茨城キリスト教学園



〒319-1295
茨城県日立市大みか町6-11-1
TEL: 0294-52-3215(代)

茨城キリスト教学園ウェブサイト
<https://www.icc.ac.jp/edu/>



法人事務局

- 地域の人口動態や将来推計人口を基にしたデータを分析
●学園全体の適正規模の検討・確立
●学園と部局の広報目的の明確化・適正化
●SNSやHPの活用を見直し、学園から部局への広報連携強化
- 建学の理念に対する教職員理解の涵養促進のため、教育活動に役立つ研修会・講演会を企画・実施
- 教職員研修の拡充
●職員自主研修参加費補助制度の活用促進
●中堅職員の各種委員会・プロジェクト参加推進
●IC Work-Life(休暇制度)の活用促進と改良
●事務システム(会計・資産・人事・給与)の見直し・改善
●働きがいの感じられる人事考課・給与制度の検討
●ICビジョン・フォーラムの参加啓発・促進
●帰属意識を高める80周年記念事業を計画・実施
●80周年記念事業における部局間・世代間協働
●事務管理者会議の活用と情報・課題の共有を強化、促進
- 学園の将来展望・資金計画に基づき、固定資産規模の適正化を推進
●築30年超校舎の寿命延長計画を作成、実施
●施設維持コストの高騰に対応した営繕を行う
●教育研究活動を支えるインフラの営繕を行う
●施設を利用する学生や教職員のニーズを把握し、適切な改善を行う
●災害時の対応力を高めるため、防火・防災管理体制の整備・拡充

キリスト教センター

- 定期販促物を作成し、活動やキアラ館のPR
●高校生の大学チャペル奨励、大学生の中高礼拝の奨励を実現
- 世界平和、人権、生命倫理、温暖化、多様性理解など、社会問題に切り込むチャペルの実施
●大学事務と連携、情報共有し質の高い学生支援の強化
●学生・教職員の礼拝参加を拡大し、大学チャペルと授業「キリスト教の精神と文化」との連携強化
- ICビジョン・フォーラムの周知徹底と、教職員(ことに教員)の参加拡大を図る
●学内イベントへの教職員参加奨励とコミュニケーションの深化
- キアラ館の修繕・保手を徹底し、建築学的・キリスト教教育的観点でも象徴的PRを続ける

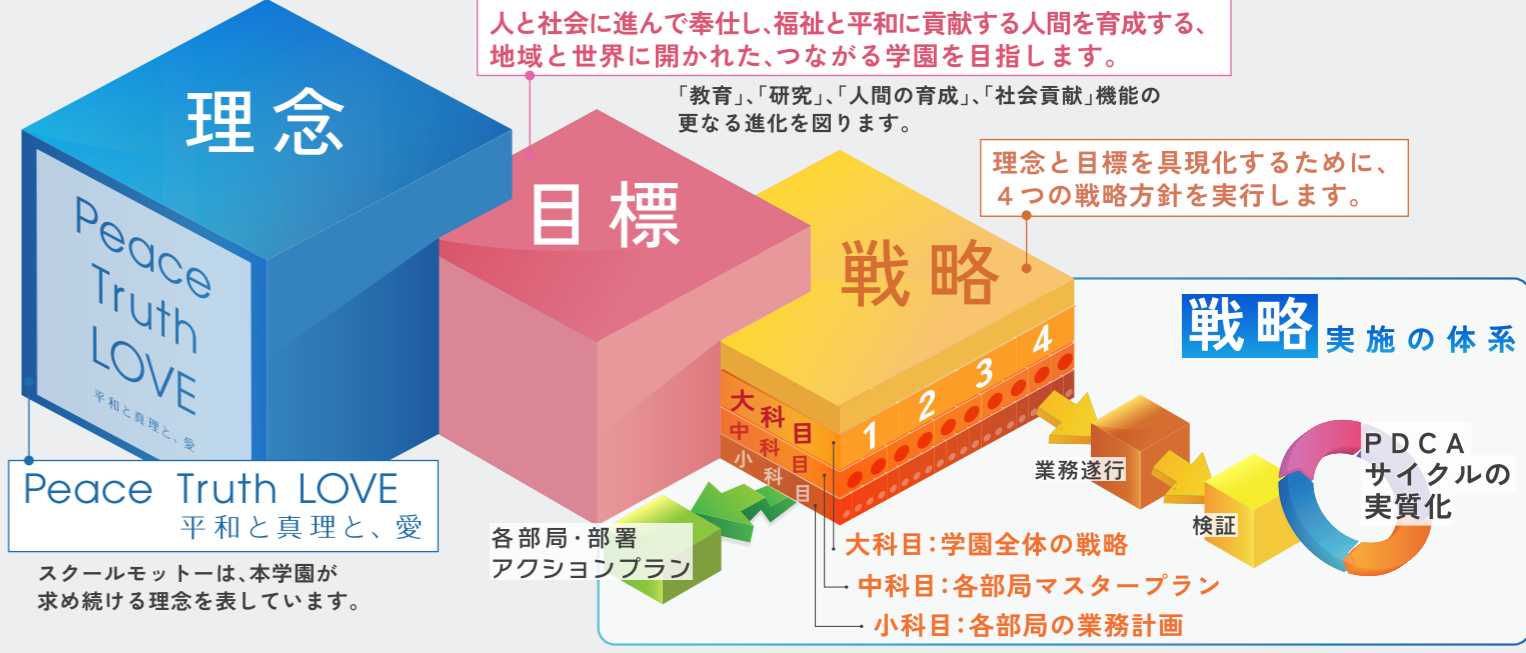
学校法人 茨城キリスト教学園 総合学園の教育ネットワーク

- 茨城キリスト教大学大学院
 - 文学研究科 英語コミュニケーション専攻
 - 生活科学研究科 食物健康科学専攻
 - 心理学専攻
 - 看護学研究科 看護学専攻
- 茨城キリスト教大学
 - 文学部 文化交流学科
 - 現代英語学科
 - 児童教育学科 (児童教育コース / 幼児保育コース)
 - 生活科学部 食物健康科学科
 - 心理福祉学科
 - 看護学部 看護学科
 - 経営学部 経営学科
 - 未来教養学環
- 茨城キリスト教学園高等学校
 - 全日制普通科
- 茨城キリスト教学園中学校
 - 完全中高一貫6年制教育
- 茨城キリスト教大学附属
 - 認定こども園
 - せいじ園・みらい園

学園全体の戦略（2026～2030年度）

1. 学生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 適正規模の確立 ● 広報戦略の深化 ● 入試改革 ● 高大連携
2. 魅力ある教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育の質向上 特色あるカリキュラム、ICT活用、教育DX ● 学生支援体制の強化 キャリア支援、生活支援、個別支援 ● 研究体制の強化 ● 建学の理念に基づいた教育
3. 教職員の育成と魅力的な職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 教職員の研修・育成制度の充実 ● 働きがいのある勤務体制改革と業務効率化 ● 組織文化の深化・コミュニケーションの促進
4. 持続可能な経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 財務の健全化と資源の最適配分で運営適正化を加速 ● 校舎・施設の整備とDX推進 ● 危機管理・事業継続計画の整備

理念の体系



中学校高等学校

- | | | | |
|----|--|----|--|
| 1. | <ul style="list-style-type: none"> ● 中高一貫と高入の適正規模を堅持する ● 大学と連携しインターシップ強化で教育魅力向上 ● メディアとSNS活用で拡散力ある広報強化 ● 特待生と出願方式を改革し魅力的入試を確立 ● 遠方からの受入れ体制を強化する ● 保護者向け発信力強化とHP改善・見学会の拡大(中学) ● 県立一貫校動向踏まえ魅力ある入試制度を確立(中学) | 3. | <ul style="list-style-type: none"> ● 教員が大学の講義・演習を聴講できる体制を整備し、教育力と専門性を向上 ● より効果的な土曜日の活用方法を研究・検討 ● 独自の教育実践に向けた校内研修を実施し、教育内容をローリング方式で検証 |
| 2. | <ul style="list-style-type: none"> ● 自学教材とAI学習ツールの活用による進学実績の向上 ● 特別支援を要する生徒に対応できる組織体制の構築・推進 ● ミッション・スクールの自覚と課題共有を高め、研修充実とキリスト教精神の実践を図る ● PBL(プロジェクト型)の発展と地域連携、アントレプレナーシップの学びの推進 ● 長期留学生受入を拡大し、高1・高2に各1名配置できる体制を構築する ● クラス編成、カリキュラムの在り方の再構築(中学) ● 短期留学、探求型研修プログラムの在り方を検討(中学) | 4. | <ul style="list-style-type: none"> ● 財務健全化を図るため、教職員の共通理解を深める ● 将来を見据えた施設設備更新計画を立案 ● 校務・業務にIT技術を導入し、効率化を図る ● 危機管理研修を毎年テーマ設定し共通認識を深める ● 事業継続の確立に向け委員会を組織し職員会議と連動してPDCAを回す ● 入試改革と連動した特待生制度の見直し |

認定こども園

- | | | | |
|----|---|----|--|
| 1. | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域ニーズに応じた利用定員の見直し ● 園児数に応じた教職員配置の検討 ● SNSの積極活用と情報発信力の強化 ● 子育て支援活動の充実と申込プロセスの簡略化 ● 地域活動への積極参加による認知向上 | 3. | <ul style="list-style-type: none"> ● 専門分野を活かした園内研修の実施、保育力向上推進 ● 積極的な園外研修の参加促進 ● ノンコンタクトタイムの確保や、ICTの活用による書類作成・活動準備の効率化を図る ● 負担軽減を目指し、年間行事と保育内容の見直し ● 休暇の取りやすい環境づくりと、家庭と仕事の両立を支援する体制・環境の整備 |
| 2. | <ul style="list-style-type: none"> ● 大学と連携した附属園ならではの新たな特色となる教育・保育の実践 ● ICT活用による教育・保育内容の充実 ● 「教育・保育の見える化」で子どもの活動内容を保護者と共有 ● ICT能力向上のため教職員研修の充実 ● キリスト教保育に関する園内教職員研修の充実 ● キリスト教教育年間カリキュラムの見直し・再構築 | 4. | <ul style="list-style-type: none"> ● 給付費等収入の最大化、支出の最適化 ● 補助金・助成金を活用した、施設設備や保育環境の改善、ICT化の推進 ● 遊具の点検及び修繕による、安心安全な施設運営 ● 将来を見据えた備品・設備の計画的な更新 ● 登降園時インフラの拡充 ● 災害に備えた避難訓練及び啓蒙活動の継続 ● 危機管理マニュアル見直し、業務継続計画作成 |

大学

	主な成果指標
1. 学生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生数を適正な規模に保つ ● 広報に対する志願者・学生・保護者・市民からの評価を高める ● 入試の内容や運営に対する受験生からの評価を高める ● 学生と高校生の連携活動による成長実感を深める
2. 魅力ある教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 学位授与方針に定める5つの力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、学修に主体的に取り組む態度、実践的ボランティア、公正性)を着実に育む ● 進路に対する学生の満足度を高める ● 学生生活支援に対する学生からの評価を高める
3. 教職員の育成と魅力的な職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の研究活動に対する学生の認知度と評価を高める ● Peace・Truth・LOVEに根ざした実践的ボランティアの具体化を促す ● FD/SDに対する教職員の満足度を高める ● 教職員が業務の非効率性を感じる場面を減らす ● 効率化された業務の向上と拡充 ● 職場の組織分化に対する教職員の好感度を高める ● 教職員間のコミュニケーションを充実させる
4. 持続可能な経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 財務の健全性を維持する ● 校舎・施設の整備に対する学生や教職員の不満を減らす ● DX推進効果についての教職員の実感を高める ● 危機管理計画に対する学生・教職員の認知度と安心感を高める